

ポローニア

ポローニアは県花「桐」の学名です。

発行／岩手県高等学校PTA連合会

〔事務局〕盛岡市上田三丁目2-1 TEL(019)625-6386
E-mail iwa_koupren@ybb.ne.jp FAX(019)613-7795

部活動を支えるPTA ヨット部



宮古高校ヨット部父母

大震災津波乗り越えて

伊藤 克宏

「宮古高校に入ったからヨット部に入るよ」。平成23年2月に娘が私に言った言葉です。私も同校ヨット部OB会なので内心うれしい気持ちになったことを覚えています。

しかし、3月11日を境にヨット部の環境は大きく変わり、大震災津波によりヨットは全て流出し、部の存続が危

ぶまれる状況となりました。

また、娘も津波を体験し、自宅が津波にのみ込まれていく光景を目の当たりにしました。

津波を体験した方々は、今でも海のそばに行きたくない、海を見たくないという人がいますが、娘もそのような感情になることを心配して

岩手県の大震災津波からの復興には、国内外からさまざまな支援をいただいておりますが、ヨット部も同様に、滋賀県の高校や匿名の方など、全国から多くのヨットを寄贈いただき、改めてヨット競技者の繋がりに感激したところです。

寒い時期でも練習に真摯に取り組み、その結果、インターハイで優勝し、全国に復活をアピールすることができたことは本当にうれしい限りです。

優勝は、すばらしい同級生に恵まれたことと、コーチ・先生・OB・OG、そして生徒を温かく支えた父母の皆様のおかげであり、特にも、ヨットを寄贈していただいた全国の皆様の支援がなければ成し得なかつたことです。激動の3年間を支えていただきました、全ての方々に心から感謝を申し上げます。



全国からの支援に感謝

宮古商業高校PTA副会長

上田 牧子

娘は3人兄妹の中の3番目の子供です。上の2人も宮古商業でヨット部でした。忘れもしない入学試験直後の「3・11」。ヨット部は活動休止となり、他の部へ入部しましたが、担任の先生にさまざまな配慮を頂きながら約3カ月後の入部となりました。「お母さん、ヨット部に入部できるよ!」と娘が明るく話をしてきましたが、宮古高校ではすでに活動を始めており、子供ながらに焦りを感じながらのスタートでした。高校生活は楽しく、後悔のない生活を送ってほしいと考えていましたが、女子は2名だけの入部でした。

3年生でのインターハイ予選となる東北大会では、代表権は獲得したものの内容がふるわず、涙を流す子供たちに「結果は受け入れて、本番のインターハイで力を出し切れるよう前を向こう!」と背中を押してやるのが精いっぱいでした。

インターハイでの帰りの迎えができなくて残念な思いもありましたが、後でDVDを見せて頂き、目頭が熱くなりました。本当に最高の3年間、またヨット部部长として良い思い出とともに子供の大きな成長を感じる事ができました。

全国のご支援くださった方々に心より深く感謝申し上げます。

震災を乗り越えた宮古・宮商ヨット部

事例発表やパネル討議 全国大会

全国大会／平成25年8月22日(木)
東北大会／平成25年7月12日(金)

第63回全国高等学校PTA連合会大会
山口大会は「夢から志へ」たくましく生
きるチカラを育むために、今、私たちが
できること」をテーマに、8月22日(木)に
開催され、岩手県から191名参加しま
した。今年度はメイン会場の様子を7つ
の分科会に映像で中継する形で行われま
した。

開会式では来賓の下村博文文部科学大
臣の挨拶がありました。基調講演では安
倍晋三総理大臣のビデオメッセージの後、
「日本の教育の再生」と題して下村文
部科学大臣から現状をふまえての教育再
生の必要性、政府の教育改革の方向性等
の説明がありました。



▲全国からの参加者で熱気あふれる山口県スポーツ文化センター

東北大会

午後は分科会ごとの記念講演の後、事
例発表・パネルディスカッション等が行わ
れ、本県からは大船渡東高校の新沼英明
会長が特別第2分科会「高校再編とPT
A」にパネリストとして参加しました。

第62回東北地区高等学校PTA連合会
山形大会は「感謝するところへ家族・地
域・社会の絆を求めて」をテーマに7月
12日(金)山形市総合スポーツセンターで開
催され、岩手県からは197名参加しま
した。

研究協議では本県からは「総会出席率
にみる本校PTAの取り組みについて」
と題して久慈高校の外谷隆司PTA会長
が発表しました。

午後からは「21世紀に生き残る学力を
つける勉強法と学習習慣」と題して国際
医療福祉大学教授で精神科医の和田秀樹
氏の講演がありました。

全国・東北大会 教育表彰受賞者名簿

- ◇文部科学省PTA活動振興功労者表彰
岩手県高等学校PTA連合会元会長 工藤重信
岩手県高等学校PTA連合会前事務局長 高橋忠孝
- ◇第63回全国高P連大会会長表彰
団体表彰 雲石高等学校PTA・葛巻高等学校PTA
役員表彰 若手県高P連元会長、全国高P連副会長 工藤重信
若手県高P連前会長 松尾正弘
- ◇平成25年度岩手県教育表彰
大槌高等学校PTA・水沢工業高等学校PTA
- ◇東北地区高P連山形大会
感謝状 盛岡第一高等学校 松尾正弘
釜石高等学校 澤口和彦
不来方高等学校 菊池亮久
不谷堂高等学校 高屋敷啓人
久慈東高等学校 紺野 啓
水沢農業高等学校 佐々木利直
宮古水産高等学校 細々木利直
◇東北地区高P連第17回広報紙コンクール
優秀賞 水沢工業高等学校 黒沢尻北高等学校
奨励賞 高田高等学校

地域と連携した活動が評価

全国大会
団体表彰

●雲石高校PTA事務局長 千葉由紀枝

第63回全国高P連山口大会での団体表
彰は先輩PTAの方々のご活躍、そして
現在のPTAのご協力の賜と深く感謝申
上げます。

活動として、環境整備緑化活動、あい
さつ運動、雲石中学校との交流会、思
郷祭での展示・即売等の協力、研修旅行
雪上運動会での餅・豚汁の振る舞いなど
たくさん参加いただき活発に行われてお
ります。これほど多くの保護者が学校教
育活動に積極的においでいただいている
高校はなかなかないのではないかと思
います。



▲今年、大盛況の雪上運動会

また、町教育振興運動として、親子読
書カードの作成、親子読書のつどいへの
参加、実践交
流会への参加
雲石町PTA
協議会への参
加等、地域と
の連携も密に
行われており
ます。

今回の受賞
を今後のPT
A活動の発展
に生かしてい
きたいと思
っています。

まずは子どもたちのために

文部科学
大臣表彰

前事務局長 高橋 忠孝



この度、PTA
活動の振興に顕著
な功績のあった者
ということで山口大
会において文部科

学大臣から表彰されました。大変光栄に
思っております。とともに、偏に、会員
各位のご支援・ご協力の賜と深く感謝を
申し上げます。

平成18年、着任早々「世界史未履修
問題」が発覚、対応に四苦八苦した記憶
があります。あと数日で退任という平成
23年3月11日にはあの東日本大震災です。

対応を機関決定する時間的余裕などあり
ませんでした。事後承認でと決断し義援
金を県内・全国に呼びかけました。「ま
ずは子どもたちのために」と常々心に据
えて仕事をしてきたつもりです。

組織の見直し、会則等の全面改定、収
益事業開始手続きと集金事務費の還元
等々、みな然りです。

平成22年には、県高P連結60周年記
念式典と東北地区高P連盛岡大会の二つ
の事業を企画・運営できたことも忘れら
れない思い出となりました。

子どもたちの未来を祈って

PTA活動
功労者表彰

● 全国高P連前副会長 工藤 重信



このたび第63回全国高P連大会山口大会におきまして、PTA活動振興功労者表彰を頂戴いたしました。先生方をはじめ、PTA A役員の皆様のご協力の賜と感謝いたしております。

忘れられないのは、平成23年3月の東日本大震災で甚大な被害を被った時期に、全国高P連の組織改革の担当役員として、経費削減・自主事業の再確認・組織の見直しによる役員数のカットを行ったこ

とでした。結果的に会費の値上げも伴い、被災地の現状に目を向けたとき、胸を締め付けられる思いでした。

最近PTAの役員の引き受け手がないという話を耳にします。確かに苦労も多くありましたが、これまでの経験は私にとつてかけがえのないものでした。子どもたちの未来を祈って活動すること。この素晴らしい活動を多くの保護者の皆様にも体験していただくことを期待しています。

平成27年は、この岩手の地で全国大会が開催されます。成功裡に開催されますことを祈念し受賞の御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

全国大会にパネリストとして参加して

大船渡東高等学校PTA会長

新沼 英明



山口大会のパネリストとして要請されたのは、今年2月頃です。昨年の東北大会では打ち合わせが十分ではなく、発表前日の顔合わせで初めて発表時間の短縮を知らされ、原稿の内容からパワーポイントの構成までやり直さなければなりませんでした。そのため、今回は早めに県の事務局を通して大会事務局へ問い合わせをしていました。

本校は統合して6年目であり、統合に

全国からの支援に感謝

東北大会で感謝状

● 釜石高等学校前PTA会長

澤口 修



この度、東北地区高等学校PTA連合会山形大会において、身に余る表彰を頂戴することができました。これもひとえに活動を支えていただいた会員の皆様・地域の方々などのお力があったこそと、この場をお借り御礼申し上げます。

振り返りますと2年前、縁あってPTA会長を仰せつかった時期は、まさしく東日本大震災が発生した時でありました。

子供たちの高校生活自体がままならぬ中、PTAとしてどのような支援・活動ができるのか、非常に苦慮した思いがあります。

そういった中、全国はもとより、東北各地から物心両面にわたるご支援をいただいておりますが、なかなか御礼を言う機会もございませんでした。今回、紙面をお借りして改めて感謝・御礼申し上げます。

今後はいままで培った人とのつながりを大切に、「ありがとう」「感謝」の気持ちを心に刻みながら地域の一員として取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

活動の一環として模擬面接

岩手県
教育表彰

● 水沢工業高等学校PTA会長

阿部 一憲



今回の受賞は、我々PTA一同大変うれしく思っています。PTA活動の一つとして行う模擬面接は、先生方とPTA、振興局の協力ももらっています。

子供たちは緊張感を持ち、本番さながらの様子で面接していたようです。その成果として、早期内定という最高の結果が出ています。

また、このことは先生方のご指導により子どもたちが資格取得できたお陰であると思えます。今後も、子供たちの進路を一番に考えて、PTAとしては学校と協力してさまざまな活動を行っていきたいと思っております。

今回の受賞は、PTA活動の評価として受け止め、今後も行っていきたいと思っております。ありがとうございました。



発表者

▲活動事例などを発表した一関第二高校の佐藤栄一
会長(左)と宮古北高校の山田英之事務局長



▲PTA活動の在り方や今後の課題などについて研究協議を行った会長研修会

会長研修会

活動の在り方を協議

平成25年10月11日(金)・12日(土) [会場] 花巻市ホテル千秋閣

第23回会長研修会が10月11、12日の両日、花巻市のホテル千秋閣で開かれました。県内各高校のPTA会長、副会長ら58人が参加。事例発表や意見交換を通して、PTA活動の成果や学校との連携、今後の課題などについて研究協議を深めました。2日目は全国大会のテーマなどについて協議を行いました。

研修会初日は午後2時から研究協議が行われました。県高P連の内館茂会長は挨拶の中で「2年後には岩手で全国大会が行われます。今年度の会長の皆さんは大会テーマや日程などを決めますが、実際にやるのは再来年の役員です。そのことを次の方々に伝えていくのが今年の会長さんの大きな役目だと思います」と、全国大会開催に向けての準備について協力をお願いしました。来賓の北村東黒沢尻北高校校長(県高等学校長協会)が挨拶を述べられました。

研究協議では、一関第二高校の佐藤栄一会長と宮古北高校の山田英之事務局長の2人が事例発表を行いました。

一関第二高校の佐藤会長は「魅力あるPTA行事に……」というテーマで発表。研修旅行や二高祭への協賛行事、被災地支援ボランティアなどについて発表。「研修旅行は日帰りで東北5県を順繰りで回っています。二高祭(文化祭)での餅ふるまいは大好評。予算は5万円で、餅は業者に委託しています。また、24年度には2回、被災地支援ボランティア活動を行い、側溝泥上げ整備や民家の片づけなどを行いました。会員が参加するPTAを目指しています」と述べました。

宮古北高校の山田事務局長は「震災後のPTA活動について」と題して発表。会員の減少で行事への参加人員の確保が難しくなり、地区PTA、研修旅行、懇親会などは廃止し、行事を精選して行っています。今年度力を入れた行事はクラスマッチと文化祭(宮北祭)。クラスマッチではバレーボールとフットサルをやっており、参加者から好評を得ております。震災以前は文化祭で餅つきをしていましたが、津波で杵や臼が流出したため、今は食堂の調理を任されてやっています。バザーも好評で売上金はPTA会計の貴重な財源になっています」と被災地としての苦労を交えながら発表しました。

これらの事例発表に対して内館茂会長と北村東黒沢尻北高校校長が助言、感想を述べました。

研究協議の後、ネット教育アナリストで安心ネットづくり促進協議会・普及啓発広報副委員長の尾花紀子氏から「高校生のうち身に付けておきたいネットとスマホのこと」「リスク&メリット」と「見



会長
内館 茂

私は小さな頃から「祖父と父がやってきた事業を引き継ぎ、立派な会社になりたい」と思い続けて生きてきました。20代後半より父と一緒に働き続けてきたのですが、どうしても自分の心の奥の守らねばならない信念があり、30代の最後に会社を辞めなくてはならなくなりました。父からは勘当同然となりました。

人生のすべてを失ってしまったかのように感じました。もうおしまいだ、何もできない……と一度は思いましたが、生きるために、家族を守るために一人で仕事を始めました。その頃は、苦しさから周りを恨んでいたように思います。

そんな私を救ってくれたのが、青春時代を共に生きた同級生でした。

仕事上の多くを失ってしまった自分。そんなことは

関係なく、友達でいられること。それまで自分のことで精いっぱい気づけなかったけれど、一所懸命生きて力を発揮している同級生たちがたくさんいました。

私はそんな仲間たちと、それまでと変わりなく仲間であられるということで助けられ、救われ、40代からの新しい道を歩み始めることができました。

「素晴らしい船を造るためには、釘の打ち方や帆の張り方を教えるのではなく、海の素晴らしさを伝えよ」

子供たちには損得ではなく善悪を基準に、夢と勇気をもって、仲間と共に青春を謳歌してほしいと心から願います。そして、人生の素晴らしさ、生きることの楽しさを、子供たちに伝えられる大人でありたいと思います。

追伸 父とは、今は円満な親子関係です。

守る側ができること」を考えよう」と題して講演をいただきました。

母親会員が親睦深める



▲約200人が参加して開かれた母親会員交流会



▲事例発表する盛岡工業高校と高田高校の母親委員

活動事例発表や意見交換

第13回母親会員交流会は、7月10日午前10時30分から盛岡市のサンセール盛岡で開かれました。県内各高校の母親会員ら約200人が参加、2校による活動事例の発表や情報・意見交換などで親睦を深めました。内館茂会長は「この勉強会のため、母親委員会の皆さんは会議を重ね、そして一生懸命、運営していただきました。きょう一日、どうぞ宜しくお願いします」と挨拶。母親委員長の米田ミドリさんも挨拶を述べられました。また、来賓の西村文彦県教育委員会生涯学習文化課総括課長（船田浩生涯学習担当課長代読）から祝辞をいただきました。

全体協議（活動事例報告）は午後1時05分から行われ、県高P連母親委員会副委員長の去石真由美さんを司会者に盛岡工業高等学校母親委員会委員長の兼平弥生さん、高田高等学校母親委員会委員長の坂口幸嘉子さん・同副委員長の菅原恵子さん・同前委員長の及川洋美さんが活動事例を発表しました。

盛岡工業高校では盛工祭参加（MAMA Cafe）や盛岡地区母親委員会参加のほか、母親委員会主催の研修会も企画。昨年度は八幡平市の学校の宿「希望の丘」でそば打ち体験講習を行い、会員相互の交流を深



▲挨拶する米田母親委員長

めました。「役員になったお母さん自身が、まぜ楽しむ」という雰囲気を受け継がれており「活動を通して学校へ足を運ぶ機会をつくり、先生方や子どもたちと話題を共有していきたい」と述べました。

高田高校は、24年度からほとんどのPTA活動が復活。文化祭で餅まきをしたほか、昨年10月には仙台方面への研修旅行も実施しました。

「これまでたくさんの人たちに支えられ頑張ってきました。感謝の気持ちでいっぱいです。平成27年度に高田高校が陸前高田市に戻り、生徒たちが安心して勉強や部活動ができるよう支えていきたい」と語りました。

全体協議の前に行われた講演会では未来の風せいわ病院理事長の智田文徳氏から「精神科の仕事について」寄り添い共に歩む」と題して講演をいただきました。

事例発表者

- 兼平 弥生さん
（盛岡工業高校母親委員長）
- 坂口 幸嘉子さん
（高田高校母親委員長）
- 菅原 恵子さん
（同副委員長）
- 及川 洋美さん
（同前委員長）

がんばる岩手

第6回

久慈工業高等学校 PTA 会長 小野寺 裕



久慈工業高校は、昭和55年に土木科、建築科、インテリア科の3学科からなる工業高校として創立され、平成22年には創立30周年を迎えました。この間、インテリア科が電子機械科となり、土木科・建築科を建設環境科に名称変更して、2学科6クラスという現在の久慈工業高校となりました。PTAの活動としては、PTA役員会が年3回あり、第1回目は総会開催のための準備から始まっています。出席率向上のために日曜日開催をここ数年続けていますが、残念ながら出席率は今一つです。各クラス3名の役員を選出し、それぞれ広報委員・研修健全育成委員・母親委員として活動してもらっています。広報委員は年2回発行のPTA会報の原稿寄稿を主として活動しており、研修健全育成委員は、研修旅行の企画立案に携わってもらっています。しかし、参加者が少なく、この2年は中止となっています。昨年度は、研修旅行の代わりに、研修会としてフラワーアレンジメント講習会を開催し、卒業式の各部屋に飾りました。

母親委員は本校の文化祭「久慈工祭」でのバザーやとん汁販売の企画運営で活躍してもらっています。この企画には、PTA役員だけでなく協力を頂ける保護者にも呼びかけをし参加してもらっています。いずれの委員も年間を通して活動してもらっているわけですが、今後とも子供たちの成長を楽しみに、PTA活動を進めていきたいと考えています。



▲水沢商業高校 西村先生

心豊かに逞しく生きる 高校生の育成目指して

平成25年度の事務局長研修会は11月15日、盛岡市のホテルルイズを会場に、県内66校からPTA事務局長や事務局員が参加して行われた。メインテーマを「変革の時代、心豊かに逞しく生きる高校生の育成を目指して」と題して、発表が行われた。

①高田高校 伊勢勤子先生 東日本大震災から3年目、高田高校PTA活動の復活について

平成23年3月11日の東日本大震災により、校舎は全壊し、人的な被害も甚大であり、PTA活動は停滞した。その中でも5月になり旧大船渡農業高校を仮校舎として学校が再開し、PTA総会が行われるなど少しずつ落ちついた状態にはなってきた。学校独自の活動は厳しかったが、県母親会交流会では、たくさんの方から励ましの言葉をいただいた。平成24年にな

り、ほぼすべてのPTA活動が実施でき、学年PTA等も復活した。生徒のために保護者の方々にさまざまな行事に積極的に参加していただいた。PTA会報が東北地区広報コンクールで奨励賞を受賞した

平成27年度には高田高校は陸前高田市に戻る予定である。今後、さらにより良い形で復興が進むよう保護者・地域とともに努力していきたい。

②遠野緑峰高校 押切道子先生
Ⅱともに歩むPTA活動であるために

現在、生徒の在籍201名に対して、役員が54名と各クラス約10名程度になっている。

今年度のPTA総会は、平日の夕方実施し、全員に夕食を準備した。また、同時に講演会等他の事業を行った結果70名の参加となった。

緑峰祭では、いろいろな形で保護者の方々に参加してもらっている。毎年餅まきが行われ、保護者同士が知り合う場となっている。

情報発信の方法として、22年度からメール配信システムを導入している。また、昨年度から氏名入りの家庭用連絡ファイルを全生徒分作成し、主にPTA関係の連絡に使用している。保護者へ配布するという生徒の責任感も高まったと考えられる。

事務局長研修会で3校発表

平成25年11月15日(金)
会場/ホテルルイズ(盛岡市)



▲岩手県警察本部 野村宏之氏

今後、PTA活動の活性化のため、楽しく無理なく、保護者や職員を巻き込みながら活動していきたい。

③水沢商業高校 西村隆一先生
Ⅱ絆を深めるPTA活動

昨年度から緊急連絡用メール配信システムを導入している。現在、約200名が登録している。

10月に開催している水商祭では、和太鼓の演奏や、餅まき・餅振る舞いが行われ、文化祭を盛り上げる効果は抜群である。また、販売益金は震災関係に寄付している。

震災ボランティア活動は、平成23年度より被災地支援として実施している。保護者の積極的な後押しもあり今後も継続していきたい。

80周年の事業として、同窓会が実施主体となり、保護者協力のもと、生徒海外ビジネス研修派遣事業(台湾)を実施している(今回が最終回の予定)。

今後は、保護者のご意見や協力を頂き、さまざまな活動において、絆を深めることができるPTA活動を構築していきたい。

◆講演 サイバー犯罪の現状とその対応について

講師 岩手県警察本部生活安全課
サイバー犯罪対策室長
野村 宏之氏

スマホ・携帯はパソコン並みの能力を持った端末である。その状況の中で、個人情報流出や、迷惑メールや違法サイト等に関わり犯罪等に巻き込まれるトラブルが増している。保護者としては、安心・安全な使用について、家庭での話し合いを持ち、フィルタリングをかけるなど管理指導が必要である。

記録・近谷博行(盛岡第二)

請求なければ支払いなし

(一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA(学校)単位で加入する制度で制度発足後12年目となりました。
(加入状況)
・全国 1,827校/1,072,714人 ・岩手県 69校/29,543人
(事故の際は)
全高P連賠償責任補償制度事故受付電話 0120-119-110

岩手県高P連高校生総合保障制度

(加入状況) Aプラン(病気補償あり) 63校 1,710人
Bプラン(病気補償なし) 63校 829人
Cプラン(自転車重点型) 63校 1,680人
(引き受け保険会社) AIU保険会社盛岡支店
TEL 019(653)1411 FAX 019(623)3541



健全育成委員会
藤原 誠司
(盛岡第三高等学校)

マナー向上へ親が手本を

今年度、東北地区の健全育成委員会では「登校時一声運動、マナーアップ運動」、「スマホの利用拡大による危険増加に対する取り組み」、「自転車乗り方、ルールの周知徹底(保護者も含む)」などが話題となりました。統一行動としては引き続きマナーアップ運動に取り組むことになりました。

参加者のアンケートには変更した方が良いと思われる項目もあり検討しましたが、今年度は変更案をまとめて来



進路対策委員会
高橋 年徳
(花巻農業高等学校)

進路は家族と話し合って

今年度の進路対策委員会は、遠野緑峰(副委員長)、杜陵、金ヶ崎、高田の各委員で構成されています。6月21日に盛岡において第一回の委員会が行われ、24年度に作成されたリーフレットの再配布とアンケートの依頼と新規卒業者の雇用促進に関する陳情訪問を今年度の活動方針としました。

今年度の雇用促進に対する陳情訪問には、内館高P連会長、高橋事務局長、小野寺委員会事務局長とて、岩手労働

年度のための準備をするに留めることといたしました。

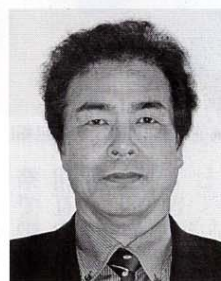
当校では今年、本人に落ち度はなかったものの自転車巻き込まれる大きな事故が発生しました。そこで今回はあいきつと自転車の安全を同時に呼びかけることとし、その後、警察の協力をいただいて保護者に対する正しい自転車ルールの説明会を行いました。事故がいかに双方に肉体的、精神的、金銭的にダメージを与えるかを子供も親もしっかりと学ぶ必要があると改めて感じました。また、あいきつは社会生活の基本です。眠かるうが少々悩みがあるうが、ちよつと無理をしても大きな声を出して新しい一日をスタートさせる。その繰り返し家庭、学校、地域を明るくしていくと思えます。しかしその手本を見せるのはやはり保護者の仕事。ぜひ実践協力をよろしくお願いいたします。

局、岩手県商工会連合会など関係8団体へ伺いました。各団体で求人傾向を確認しました。本年度は、震災復興等で好調ではあるが一部職種に偏っていることや、3年以内の離職などが話題になりました。

9月に行われた委員会では、東北地区Pの委員会の報告やリーフレットの内容の確認などが話し合われました。

現在、大学や専門学校等への進学を目指す生徒も、いつかは就職します。先ほども話題にした、ミスマッチなどの理由での離職が問題となっています。

その問題を解決に向かわせるには、家族との話し合いが重要になってきます。親は職業人として先輩です。体験談などを参考にできるはず。就職は人生の選択です。家族や学校の先輩、先生とよく話し合って決めてほしいと思います。



調査広報委員会
佐藤 栄一
(一関第二高等学校)

研修会で編集技術を磨く

今年度の調査広報委員会は、千厩(副委員長)、花北青雲、宮古北、久慈工業、一関第二の各委員の構成で、活動がスタート致しました。

6月21日に第一回委員会を開催し、昨年度の引き継ぎ事項や今年度の活動内容についての確認、意見交換を行いました。「ポロニア」の内容についても活発な意見交換をしました。また11月21日に初の試みとしてアイーナで広報紙研修会を開きました。

今年度も、広報コンクールを開催致します。昨年は、応募数45校と多くの学校よりご協力頂きました。広報紙は多くの人に読まれて初めて意味や価値があるものです。より多くの人に読んで頂きたいのです。

今年度は、ぜひ昨年を上回る応募を期待しておりますので、応募されていない学校もぜひ応募して頂けますようお願い致します。目標は全校応募です。広報紙は、読みたくなるような魅力のあるものにしなければなりません。見やすく・読みやすく・そして興味を持てる内容(PTA行事・子供たちの生活及び活躍等)にし、レイアウト、字体の工夫なども必要となります。

各単位PTAの特色を生かした取り組みを期待します。ぜひ、東北で最優秀賞を取れるような広報紙が出てくることを楽しみにしております。



母親委員会
米田ミドリ
(盛岡農業高等学校)

交流通し、母ちゃんパワー

母親委員会では、今までのホテルルイズからサンセール盛岡に会場を変え、7月10日に203名の参加の下、スローガーンに「つなげようみんなの心」、テーマを「未来を担う子どもたちの幸せを願い、今できること」として、第13回母親会員交流会を開催いたしました。

未来の風せいわ病院理事長・智田文徳先生の講演「精神科の仕事について」寄り添い共に歩む」を聴きながら、診療時に実際に行っていることを全員グ

ループに分かれて体験し、楽しい時間を過ごしました。

活動事例は、盛岡工業高校では2年に1度の盛工祭参加の企画及び準備、毎年母親委員会主催の研修会、会員同士の交流が深められた発表。高田高校では、震災後3年目を迎えても状況が良くなっていない中、休みながら少しずつ母ちゃんパワーを蓄積し、母親委員会を中心とする活動の発表でした。

9月12日には秋田県母親交流会に参加しました。パレアン又代表の中田邦子氏に「香りでアンチエイジング」健全な心身と美しい年齢の重ね方」の講話の後、参加者158名が5グループに分かれてのマッサージオイル作りと、充実した体験をさせていただきました。

今後も母親委員会の活動が有意義なものになるよう力を合わせてまいりましょう。

将来見据えた 各種活動展開

岩手県立気仙光陵支援学校
PTA会長

及川 敏明



気仙光陵支援学校は、昭和63年に気仙養護学校として開校しました。当初は小学部と中学部のみで40名でスタートしました。平成2年より高等部が設置され、平成21年に現在の校名に変更、今年度は105名が在籍しています。校訓「明るく、楽しく、元氣よく」のもと、一人一人が心豊かにたくましく学校生活を送っています。本校のPTA活動の特色の一つは進路にかかわる研修です。年2回行っている研修会では、進路担当の先生の講話で制度等の基本的な知識を学んだり、卒業生の保護者を招いて卒業後の生活や利用している施設等について実体験を基にした貴重な話をお聞きしたりしています。バスを借り上げでの研修視察では、普段なかなか見ることのできない福祉施設を見学することで卒業後のイメージが持ちやすくなつて



▲地域とのつながりを目指した活動

もう一つの特色は、児童生徒も一緒に行う地区活動です。高田・大船渡・釜石地区に分かれて、地区ごとに保護者が計画・準備をして、ニュースポーツや調理などのレク活動を楽しんでいます。将来は地域の中で暮らしていくことになるので地域内のつながりを大切にしています。そのほか、除草や窓ふきの奉仕活動、文化祭でのバザーでも会員相互の交流を深めながら、支援学校がゆえのよりよい将来を見据えた活動をテーマに活動しています。

硬軟織りませ 得意な分野で

岩手県立福岡高等学校
PTA会長

生内 雄二



今年度1・2年目を迎えている福岡高校は、校是を文武両道、質実剛健と定め、「守るべきものは守り、変えるべき事は変える」、不易流行の決意の中、県北の旧制中学の伝統を受け継いでおります。PTAとしての意識と覚悟、それは入学式直後のPTA入会式に始まります。代々言い続けられてきた文言。「高校とは勉学に励む所である。部活動等情熱を注げる事に励む所である。しつけ、社会ルールの習得、これは家庭でやることであり、学校に頼る事ではない。教師にはプロの仕事の本職として求



▲おいしくて安い福陵祭のポップコーン

めるものである。子供は酒も飲めばタバコも吸う。妊娠もすれば、妊娠もさせる。子供たちの生活は親が責任を持つ事である。毎年入会式の時にガツンと喝を入れられる行事です。その意識はPTA総会の参加人数にも如実に表れ、赴任されてくる校長先生は毎回これだけの参加率の総会は見たことがない、と驚かれる次第です。とはいえ、硬いだけでなく、福陵祭への参加、懇親研修旅行、挨拶運動、楽しく読み応えのある広報紙（すべて保護者の作成）の発行等、喜びと仲間づくりも一生懸命なPTA活動を行っています。やらされる、イヤイヤやる活動なんぞなんのその子供を通して最も自分を表現できる活動に邁進している、そういうPTAが福岡高校PTAなのです。

編集後記

プロ野球は、東北楽天イーグルスが日本一になり、東北に大きな感動と希望を与えてくれました。震災直後、嶋選手が「誰かのために戦う人は強い」と言っていました。名言だと思います。私たちPTA活動も「子供たちのため」の活動であり、子供たちのために地道な努力を必要とする活動でもあります。

少子高齢化の波の中、就学・就労に関わる問題や雇用形態の多様化などにより、若者の離職率の増加など、子供たちを取り巻く社会環境が大きく変化し、価値観も多様化しています。21世紀を担う子供たちが、豊かな社会性と優れた想像力を養い、自ら責任を持って行動できる人間として成長していくことは、すべての人の共通の願いです。

そのためには、PTAの活動の場を利用し情報交換や意見交換が行われなければなりません。

「ポローニア」が県内のPTAのつながりの一端としての情報発信になればと思います。

最後になりましたが、「ポローニア」発行にあたりご多用中のご協力頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

今後PTA活動の活性化につながる会報作成にしていきたいと思っております。

(調査広報委員長・佐藤栄一)

〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 佐藤 栄一 (一関第二)
- 副委員長 吉田 仁一 (千 厩)
- 委員 山岡 勝利 (花北青雲)
- 小向 優美 (宮古北)
- 仲村 幸子 (久慈工業)

◇事務局

- 千葉美津男 (一関第二)
- 高橋 秀幸 (県高P連)
- 木村 智子 (県高P連)